

## 副詞用法の形容詞句と名詞句

大石 強

### 0. はじめに

本稿では、副詞的に用いられる形容詞句と名詞句の分布上の特徴を検討し、その分布と形容詞について提案された Williams (1982)、Di Sciullo and Williams (1987) の主要部末尾フィルター (Head Final Filter) との関係を論ずる。

副詞的に用いられる形容詞句とは、伝統的に単純形副詞 (Flat Adverb) と呼ばれるもので、次のような斜字体の形容詞句を指す。

(1) a. Don't talk *daft*.

b. She pays her rent *regular*.

c. He spoke to John *sharp*.

Quirk et al. (1985)

副詞的に用いられる名詞句とは、Larson (1985) が裸の名詞句副詞 (Bare NP Adverb) と呼ぶもので、Larson は次のような例を挙げている。

(2) a. John arrived *that moment/minute/hour/day/week/month/year*.

b. John arrived *the previous April/March 12th/Sunday/the Tuesday that I saw Max*.

c. John will arrive *sometime next week*.

d. John arrived *yesterday*.

e. John will arrive *tomorrow*.

f. John arrived \*(on) *that occasion*.

g. John arrived \*(during) *this vacation*.

- (3) a. You have lived *few places that I cared for*.  
 b. You have lived \* (near) *every street I have seen*.  
 c. You have lived \* (at) *some location near here*.
- (4) a. We were headed *that direction*.  
 b. \*We were headed *that course*.  
 c. \*We were headed *some path*.
- (5) a. You pronounced my name *that way*.  
 b. \*You pronounced my name *this fashion*.  
 c. \*You pronounced my name *the prescribed manner*.

裸名詞句副詞として用いられる名詞は、時間を表すものはカレンダー上の表現や昨日、今日、明日などの特定の表現に限られ、(2f, g)のように時間を表す表現なら何でもよいということにはならない。同様に、場所、方向、様態を表す裸名詞句副詞として用いられる名詞は、**place, direction, way**に限定されている。

これらの他品詞の語が副詞として用いられると、特定の位置に限定されて用いられ、主要部末尾フィルターがその分布を制限しているのではないかということ論ずる。

## 1. 単純形副詞

単純形副詞は、言い換えると裸の形容詞句副詞とも言うべきもので、動詞句の中でVの後ろに現れる付加部である。Quirk et al. (1985)では、単純形副詞は動詞の後ろ、あるいは、目的語がある場合は目的語の後ろの位置に限定されると述べられている。

- (6) a. He *slowly* drove the car into the garage.  
 b. He drove the car *slowly* into the garage.
- (7) a. \*He *slow* drove the car into the garage.  
 b.?\*He drove the car *slow* into the garage.

Quirk et al. (1985)

(7b)は容認可能性が低いが、アメリカ人のインフォーマントはこの文を容認可

能としている。(6)のように、*slowly* という副詞が「動詞＋目的語」の前後に現れるのに対して、(7)のように、単純形副詞は「動詞＋目的語」の後ろの位置に限定されている。次の例からも同様の制限が働いていることが分かる。

- (8) a. Jack arrived *late* at the airport.
- b. Jack arrived at the airport *late*.
- c. \*Jack *late* arrived at the airport.

単純形副詞は、さらに、次の例のように文頭に生ずることはできないという特徴を持つ。

- (9) a. \**Slow* Kevin drove the car into the garage.
- b. \**Late* Jack arrived at the airport.

(9a)、(9b)は、それぞれ「のろまなケビン」、「死んだジャック」という意味であるなら容認可能となるが、動詞によって表される動作を修飾する副詞用法は認められない。また、単純形副詞として用いられる形容詞が名詞を修飾することもできることから、名詞を修飾する形容詞用法との誤解を避けるためにこの位置では用いられないという説明は妥当でない。次の例のように、単純形副詞が属格の外側に位置していることから名詞を修飾しているとは言えない例でも、単純形副詞は文頭に生じない。

- (10) a. My wife drove to the airport *fast*.
- b. \**Fast* my wife drove to the airport.

このように見てくると、単純形副詞が本来形容詞であることから、形容詞が付加部として名詞を修飾する際に適用される主要部末尾フィルターが、動詞を修飾する際にも働いているのではないかと思われる。次節でこの点を検討する。

## 2. 主要部末尾フィルター

Williams (1982)、Di Sciullo and Williams (1987) は、名詞前位修飾に関して次のフィルターを提案した。

(11) Head Final Filter: Williams (1982), Di Sciullo and Williams (1987)

\*[ $x_p$  w X y] N      y  $\neq \emptyset$

(11)は、ある XP という句が名詞の前位修飾をする場合には、XP の中で主要部 X の後ろに要素があってはならないことを述べている。すなわち、名詞の前位修飾要素は、その構成の中で主要部が末尾に来ていなければならないことになる。

(12) a. the [*very proud*] man

b. \*the [*proud of his children*] man

c. the man [*proud of his children*]

(12)では、*proud* を主要部とする形容詞句を角括弧で囲んである。この形容詞句において、主要部 *proud* が末尾に来ている場合は名詞前位修飾が可能であるのに対し、末尾に来ていない場合は前位修飾が不可能である。

前置詞句についても同様の制限で説明できる。

(13) a. a person [*with long hair*]

b. \*a [*with long hair*] person

(13b)では、前置詞句の主要部 *with* が末尾に生じていないので、名詞前位修飾が許されない。

同様に、主要部末尾フィルターが動詞を修飾する要素にも働いていると考えられる。Emonds (1976) が構造保持制約の例として挙げた次の例も、主要部末尾フィルターにより動詞前位修飾が認められないと考えることができる。

- (14) a. Germany couldn't be defeated with conventional arms [*by some countries*].  
b. \*Germany couldn't be [*by some countries*] defeated with conventional arms.

(14b)も、(13b)と同じように、前置詞句の主要部 *by* が句の末尾に来ていないため前位修飾が許されないと考えられる。前置詞句は、その主要部が常に末尾にこないため、前位修飾ができないことになる。

同様の例は以下の通りである。

- (15) a. Mary [*very quickly*] raised her hand.  
b. Mary raised her hand [*very quickly*].  
(16) a. The enemy destroyed the village [*in 30 minutes*].  
b. \*The enemy [*in 30 minutes*] destroyed the village.  
(17) a. The enemy destroyed the village [*after the war was over*].  
b. \*The enemy [*after the war was over*] destroyed the village.

(15)の場合は、副詞句の中で主要部の副詞が末尾に来ているので、前位修飾も後位修飾も可能であるが<sup>1</sup>、(16)、(17)では、主要部が句の末尾に来ていないため前位修飾が不可能であると考えられる。

ここで注意しておかなければならないことがある。次の例では、前置詞句が前位修飾しているような位置に現れている。

- (18) She had not, [*despite years of anxious endeavour*], succeeded in living down that intial mistake.

しかしながら、本稿では、副詞的な要素は、Cinque (1999)で主張されているように、時間、場所、様態などの副詞を除き、すべて対応した機能範疇の指定辞の位置に厳密に一对一の対応をして生じていると考える<sup>2</sup>。動詞に対する前位修飾と後位修飾を制限する主要部末尾フィルターが適用されるのは、Cinque が出来事に付随する副詞類 (Circumstantial adverbs of place, time, manner, and the like)<sup>3</sup> と呼び、動詞句内で動詞の補部に後続する副詞類であると考え。すなわち、

これらの副詞類のみが、お互いに厳密に順序づけられておらず、付加部として生ずることができる副詞と考える。従って、(18)の例では、副詞要素が、**Cinque**が主張するように、主語よりも高い機能範疇の指定部に位置し、主語・助動詞等が移動でさらに高い機能範疇へ上がったと考える。(18)の副詞要素が動詞句を修飾するのではないことは、次の例からも裏付けられる。

- (18) [*Despite years of anxious endeavour*], she had not succeeded in living down that initial mistake.

Quirk et al. (1985)

ここで、単純形副詞が形容詞なのか副詞なのかを明らかにしておかなければならない。単純形副詞が形容詞であるなら *slow*, *late* は主要部末尾であるので、前位用法が可能になってしまい、これは事実と反する。確かに、次の例に見られるように形容詞と類似した特徴が見られる。

- (19) a. ?*Speak clear*.

b. *Speak loud and clear*.

- (20) a. \**the soldiers timid*

b. *the soldiers timid or cowardly*

Quirk et al. (1985)

(20)に見られるように、形容詞は単独では後位修飾が難しいという事実がある。同様に、単純形副詞も語によっては単独で生ずることが難しいという事実がある。しかしながら、単純形副詞は形容詞とは異なる分布を有することから、統語上の範疇は副詞であると考えられる。また、動作を修飾することから二次述語とは考えない。

- (21) *Drive slow*.

(22) a. *My wife drove fast to the airport*.

b. *My wife drove to the airport fast*.

- (23) a. Jack arrived *late* at the airport.  
b. Jack arrived at the airport *late*.

(21)では、主語が *slow* 「のろまな」という解釈で使われているのではなく、動作を修飾している。また、(22a)、(23a)において、単純形副詞が主語に対する二次述語であると解釈することは、主語・述語関係 (*predication*) の構造上の条件<sup>4</sup> に違反してしまう。従って、単純形副詞は形容詞でありながら副詞であるという次の構造を有すると考える。

- (24) [AdvP [A A]]

このように考えれば、単純形副詞は副詞句の中で主要部が末尾に来ていないことになり、前位修飾が許されないことが説明されることになる。

最後に、普通の *-ly* 副詞であっても、補部をとると主要部が副詞句内で末尾に來れなくなることから前位修飾が許されないという例を見ておく。

- (25) a. His theory was formed [*independently* of empirical data].  
b. \*His theory was [*independently* of empirical data] formed.

従って、名詞修飾要素について提案された主要部末尾フィルターは、単純形副詞や(25)のような *-ly* 副詞などの動詞修飾要素についても当てはまると考えられる。<sup>5</sup>

### 3. 裸名詞句副詞

Larson が議論した裸名詞句副詞の例はすでに見たが、この副詞類はすべて *Cinque* の分類した出来事に付随する副詞類に含まれる。従って、裸名詞句副詞は、単純形副詞と同様、主要部末尾フィルターの適用を受けると予想される。次の例を見よ。

- (26) a. Harry visited his uncle *last week*.  
 b. Harry, *last week* visited his uncle.  
 c. *Last week*, Harry visited his uncle.
- (27) a. Janet visited her aunt *that morning*.  
 b. Janet, *that morning*, visited her aunt.  
 c. *That morning*, Janet visited her aunt,

上記の例文は、イギリス人の判断によるものである。(26b)、(27b)に見られるように、裸名詞句副詞が前位修飾の形をとっている。しかしながら、これは注3で示した *Cinque* の特徴付けに反している。もう少し具体的にインフォーマントの判断を検討すると、(26a)、(27a)がこのままで特に問題がないのに対し、(26b)、(27b)は、この文の後に *and washed his/her car...* などのように情報をもつと加えないとしっくりこないという直観を述べた。このようにさらに情報が必要であるという直観は、実は、(26c)、(27c)にも当てはまる。とすると、考えられるのは、文末の副詞が一定の条件下で文頭に移動され、その後、主語がさらに上の機能範疇へ繰り上げられたということである。この仮説が正しいとすれば、(26b)、(27b)の副詞は文頭の位置にあり、動詞に対する前位修飾の位置にないということになる。そうであれば、主要部末尾フィルターが依然として成立していることになる。

今度は、前置詞句を用いた次の例を見てみよ。

- (28) a. Janet visited her aunt [*on a Sunday morning*].  
 b. Janet [*on a Sunday morning*] visited her aunt,  
 c. [*On a Sunday morning*] Janet visited her aunt.

ここでも、一見、主要部が句の末尾にない前置詞句が動詞の前位修飾をしているように見える。しかしながら、(28a)は、他の二つの例文とは異なる解釈をもつ<sup>6</sup>。(28a)の *on a Sunday morning* は特定 (*specific*) の解釈をもつものに対し、(28b)、(28c)の *on a Sunday morning* は「毎日曜日の朝 (*every Sunday morning*)」と



いう習慣 (*habitual*) の解釈をもつ。Cinque の副詞類の階層では、習慣を表す副詞は対応する機能範疇の指定部に現れる。従って、(28b)、(28c)の前置詞句は、出来事に付随する副詞類、すなわち、付加部として動詞の前位修飾をしているわけではなく、(28a)の前置詞句とは種類が異なることになる。

このように見てくると、裸名詞句副詞も主要部末尾フィルターの適用を受けていると考えてよいと思われる。従って、裸名詞句副詞は、単純形副詞に類比した次の構造をもつと考える。

(29) [AdvP [NN]]

#### 4. おわりに

本稿では、副詞的に用いられる形容詞句と名詞句の分布上の特徴を明らかにした上で、Williams らの提案した主要部末尾フィルターが形容詞類の修飾関係を説明するだけでなく、副詞類の修飾関係も説明してくれると論じた。その際重要なことは、副詞類が機能範疇と厳密に一对一の対応関係を持つと主張した Cinque の枠組みを採用したことであった。そうすると、主要部末尾フィルターが説明するのは、付加部として修飾要素となるものであり、名詞修飾要素と共に、単純形副詞と裸名詞句副詞を含む出来事に付随する副詞類がその守備範囲に入ってくるということを見た。

## 注

本稿は、2002年12月19日の新潟大学言語研究会第6回研究発表会で発表したものの一部を加筆訂正したものである。本稿に関わる部分に質問・意見を頂いた本間伸輔氏、池田英喜氏および言語研究会の参加者に感謝申し上げます。また、本稿の例文について判断して下さった新潟大学外国人教師 John Hessian 氏（アメリカ人）と Jennifer Holt 氏（イギリス人）にも感謝申し上げます。

1. (15a)と(15b)は意味が異なる場合がある。(15a)のように前に現れる *quickly* は出来事を修飾する場合と動詞の表す動作の過程を修飾する場合の二通りの解釈を持つのにに対して、(15b)のように後ろに現れる *quickly* は動作の過程を修飾する解釈しか持たない。具体的には、*quickly* が出来事にかかる場合、例えば、「質問ありませんか」という問いかけの出来事があった後に「手を挙げるという出来事」が「素早く、間髪を入れずに」起きたという解釈になる。極端な場合、手を挙げるという動作そのものはゆっくりであっても構わないことになる。これに対して、*quickly* が動作の過程にかかる場合は、手を挙げるという動作が「速く」行われたことを意味する。

2. Cinque の設定した機能範疇の階層と対応する副詞の例は次の通りである。

(i) Cinque (1999:106): The universal hierarchy of clausal functional projections

[*frankly* Mood<sub>speech act</sub>] [*fortunately* Mood<sub>evaluative</sub>] [*allegedly* Mood<sub>evidential</sub>]  
[*probably* Mode<sub>epistemic</sub>] [*once* T (Past)] [*then* T (Future)] [*perhaps* Mood<sub>irrealis</sub>]  
[*necessarily* Mod<sub>necessity</sub>] [*possibly* Mod<sub>possibility</sub>] [*usually* Asp<sub>habitual</sub>]  
[*again* Asp<sub>repetitive</sub>(I)] [*often* Asp<sub>frequentative</sub>(I)] [*intentionally* Mod<sub>volitional</sub>]  
[*quickly* Asp<sub>celerative</sub>(I)] [*already* T(Anterior)] [*no longer* Asp<sub>terminative</sub>] [*still* Asp<sub>continuative</sub>]  
[*always* Asp<sub>perfect</sub>(?)] [*just* Asp<sub>retrospective</sub>] [*soon* Asp<sub>proximative</sub>] [*briefly* Asp<sub>durative</sub>]  
[*characteristically*(?) Asp<sub>generic/progressive</sub>] [*almost* Asp<sub>prospective</sub>]  
[*completely* Asp<sub>SgCompletive</sub>(I)] [*tutto* Asp<sub>PlCompletive</sub>] [*well* Voice]  
[*fast/early* Asp<sub>celerative</sub>(II)] [*again* Asp<sub>repetitive</sub>(II)] [*often* Asp<sub>frequentative</sub>(II)]  
[*completely* Asp<sub>SgCompletive</sub>(II)]

3. Cinque は、具体的には、場所、時間、様態、手段、随伴、理由、目的の副詞をこの類に含めていて、注2で示した階層の下に生ずる副詞となる。これら

の副詞は、次の特徴を持つと述べている。

- a. お互いに厳密に順序づけられていない。
  - b. お互いの構造位置により、互いの作用域の中に入れる。
  - c. (一部の様態の副詞を除き) 典型的には、前置詞句か裸の名詞句の形で現れる。
  - d. 副詞句に認められる動詞句の前の位置に生ずることが出来ない。
  - e. 他の副詞句が命題から命題への写像を行う演算子として機能するのに対して、基底の出来事構造について叙述する修飾語として機能する。
4. 構造条件として、主語と述語がお互いに c 統御あるいは m 統御していることが必要であるが、いずれの条件であっても違反してしまう。
5. 本間伸輔氏の指摘で、形容詞に対する修飾要素も同様のことが言えるか検討してみた。イギリス人のインフォーマントは次のような判断をした。
- (i) Mary is available [*independently of her company*] Monday mornings.
  - (ii) Mary is, [*independently of her company*], available Monday mornings.
- 前位修飾が可能であるが、その際十分な休止 (*heavy pause*) が必要ということであった。従って、前位修飾の際は、普通の付加部として用いられているのとは異なるようである。これについては、今後の研究課題としたい。
6. (28)の例文の判断も Jennifer Holt 氏である。

参考文献

- Andrews, A. (1982) "A Note on the Constituent Structure of Adverbials and Auxiliaries." *Linguistic Inquiry* 13:313-317.
- Baker, C. L. (1981) "Auxiliary-Adverb Word Order." *Linguistic Inquiry* 12:309-315.
- Cinque, G. (1999) *Adverbs and Functional Heads: A Cross-Linguistic Perspective*. Oxford University Press, New York.
- Di Sciullo, A. M. and E. Williams (1987) *On the Definition of Word*. MIT Press, Cambridge, Mass.
- Emonds, J. E. (1976) *A Transformational Approach to English Syntax: Root, Structure-Preserving, and Local Transformations*. Academic Press, New York.
- Greenbaum, S. (1969) *Studies in English Adverbial Usage*. Longman, London.
- Haegeman, L. and H. Wekker (1984) "The Syntax and Interpretation of Futurate Conditionals in English." *Journal of Linguistics* 20:45-55.
- Halliday, M. A. K. (1985) *An Introduction to Functional Grammar*. Edward Arnold, London.
- Jackendoff, R. (1972) *Semantic Interpretation in Generative Grammar*. MIT Press, Cambridge, Mass.
- Larson, R. (1985) "Bare-NP Adverbs." *Linguistic Inquiry* 16:595-621.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech, and J. Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman, London.
- Williams, E. (1982) "Another Argument that Passive Is Transformational." *Linguistic Inquiry* 13:160-163.